



ごみ減量へ！  
がんばる  
自治体

# こつこつ小平 「もったいない」が根付くまち 家庭ごみ有料化のその後

東京都小平市 環境部 資源循環課長 市川 正巳

## 1 小平市の環境

小平市は、東京多摩地域の東北部いわゆる武蔵野台地にあり、都心から西に 26 km、新宿から電車で 25 分の距離にありながら、昔から地域の人に愛され、親しまれてきた赤い丸ポストが市内に 32 本点在しており、小平駅前には、高さ約 2 m 10cm の日本一大きな赤い丸ポストがあります。

また、過去から受け継がれてきた豊かな自然環境にも恵まれています。「小平グリーンロード」は、玉川上水、野火止用水、狭山・境緑道、都立小金井公園を結んで小平をぐるりと一周する水と緑の散歩道です。春の花、夏の緑陰、秋の紅葉、冬の雪景色など四季折々の風景を楽しむことができ、市民の散歩道として親しまれています。

## 2 家庭ごみ有料化前後の状況

小平市では、既に多摩地域の多くの自治体で実施されている「家庭ごみ有料化」を平成 31 年（2019 年）4 月からスタートしたところで、この時の状況については「ごみと・SUN vol.13（2019.5 月発行）」で、準備段階における市民説明会の状況や、同時に行った戸別収集への移行及び全量容器包装プラスチックの資源化を伴う分別変更などの取り組みを紹介させていただきました。

それから約 2 年半経過したところですが、今回は有料化の前後のごみ量の状況や併用施策の内容について、ご紹介したいと思います。

### (1) ごみ量の変化

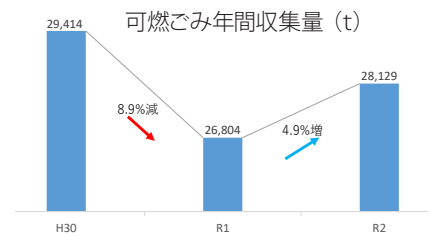
家庭ごみ有料化の実施により、ごみの減量や資源の分別の徹底への意識が向上し、市民のみなさまが出されるごみが減量すると期待されました。結果は、(公財) 東京市町村自治調査会が発行している「多摩地域ごみ実態調査」(以下「多摩ごみ調査」) における「総ごみ量」のうちの「収集ごみ量」について、有料化前の平成 30 年度と有料化後の令和元年度、及び直近の令和 2 年度の 3 か年分の推移を見ていきたいと思います。

### ① 可燃ごみ

平成 30 年度は 29,414 t であったものが、令和元年度は 26,804 t、▲2,610 t (約▲8.9%) の減。その後、令和 2 年度は 28,129 t、+1,325 t (約+4.9%) の増となりました。

有料化初年度は、減量効果が表れたのですが、令和 2 年度当初である 4 月頃は新型コロナウイルス感染症拡

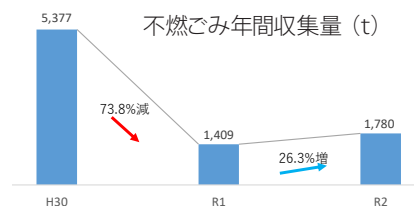
大の影響により、家庭から出されるごみ量の増加が見られたものの、平成 30 年度を下回ることができました。



### ② 不燃ごみ

平成 30 年度は 5,377 t であったものが、令和元年度は 1,409 t、▲3,968 t (約▲73.8%) の減、その後、令和 2 年度は 1,780 t、+371 t (約+26.3%) の増となったところです。

こちらも可燃ごみと同様に有料化初年度は、大きく減量効果が表れましたが、令和 2 年度に入ると、状況は先ほどの可燃ごみと同じで、さらにいわゆる片付けごみの増もあったものの、平成 30 年度を下回ることができました。

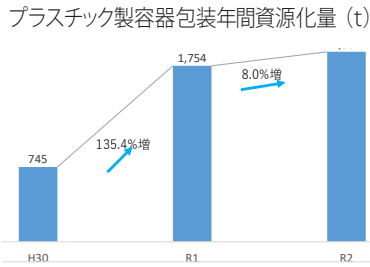


### ③ プラスチック製容器包装

平成 30 年度は 745 t であったものが、令和元年度は 1,754 t、+1,009 t (約+135.4%) の増。その後、令和 2 年度は 1,894 t、+140 t (約+8.0%) の増となったところです。

これについては、小平市では家庭ごみ有料化を機に全量のプラスチック製容器包装の資源化へと分別変更を行い、それまで硬質のプラスチックのみを分別収集していたものが、軟質のものも含めて、全量のプラスチック製

容器包装を資源化するべく、大きく収集量が倍増したところであり、さらに、コロナ禍においては店内での飲食からテイクアウトの広がりなど、新しい生活様式への変化等から、より収集量が増えたものではないかと捉えているところです。



## (2) まとめ

このように、平成30年度と令和元年度を比較すると、多摩地域の多くの自治体と同様に、家庭ごみ有料化による減量効果という結果を得られたと思います。これは、ひとえに市民のみなさまのご理解とご協力を始め、多くの方々の努力が表れたものと考えています。

またその結果として、多摩ごみ調査で「総ごみ量」の「1人1日当たり」順位で見れば、多摩26市中、小平市は平成30年度が19位でしたが、令和元年度は4位へと大きく変化しました。さらには、環境省が例年実施している「一般廃棄物処理事業実態調査の結果（令和元年度）」では、人口10万人以上50万人未満の自治体における「1人1日当たりのごみ排出量」で全国8位（10位までに小平市を含む多摩地域8自治体）になりました。

コロナ禍によるごみの増加も、この原稿を書いている現在は、比較的その影響が少なくなってきましたが、特に、令和2年度は、感染拡大の防止のために啓発イベントや各種講座などが満足に行えなかった状況でした。このような状況下ではありますが、意識啓発は必要なものであるため、引き続き、取り組みは行っていきたいと考えています。

## 3 さらなるごみ減量に向けて

家庭ごみ有料化の実施によって、ごみ減量の取り組みは前進したと捉えています。今回は、その他の併用施策として、大きく2つご紹介させていただきます。

まず、一つ目は、多摩地域では既に他の自治体で実施している市もあり、ご存じの方もいるかと思いますが、(株)セブン-イレブン・ジャパンと小平市との地域活性化包括連携協定に基づく、「ペットボトル回収」の取り組みです。

令和2年7月から市内のセブン-イレブン19店舗にペットボトル回収機が設置されました。ペットボトルを持ち込んだ市民（来店者）は5本で1nanacoポイントが得られ、また、回収されたペットボトルは100%がボトルtoボトルへと水平リサイクルされるという、お財布にも環境にも優しい取り組みです。

小平市は市ホームページなどで、この取り組みを周知、PRしており、お買い物の際などにご家庭で飲み終えた

ペットボトルをお持ちいただき、店頭回収を進めたいと考えています。

2つ目は、雑がみの分別を推進するための「雑がみ回収袋の作成」にかかる広報の取り組みです。

小平市が行った直近のごみ組成分析調査では、可燃ごみに含まれる不適物の内容のうち、可燃性資源が最も多く、全体の12.8%を占めていたという結果でした。さらに、そのうちの約半分が雑がみに分類されるもので、具体的には食品やお菓子の箱、ティッシュペーパーの箱などがあり、こういった紙類のものが可燃ごみに多く含まれていました。

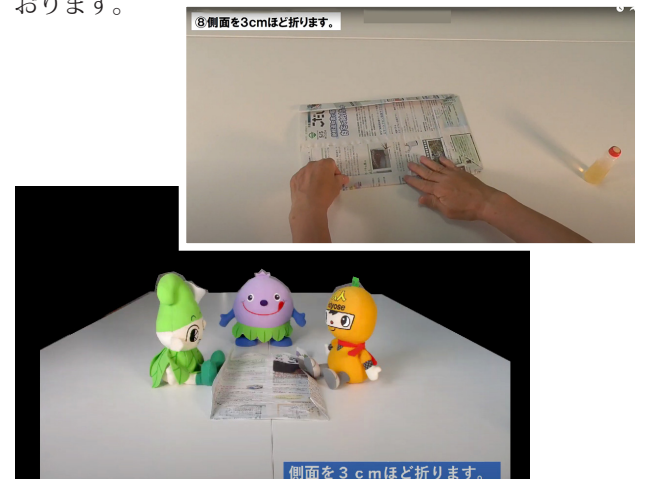
これらの雑がみとされるものは、資源物として出すことができるものであり、よく言われる「混ぜればごみ、分ければ資源」というように、可燃ごみに混ぜてしまっているものから、資源物へと促したいという意図です。

市では、雑がみは「紙袋」に入れて出してくださいと案内していますが、最近は紙袋を入手する機会が減っていて、紙袋を持ち合わせていないという声もしばしばいただきます。

そのためこの度、月2回全戸配布されている市報の再利用として、広報紙から作る「雑がみ回収袋」の作り方の動画を配信し始めました。2つのバージョンがあり、市職員の手で手順に従い作成するものと、キャラクターの人形を動かして作り方を表現したものがあります。

なお、キャラクター人形のバージョンは、小平市のキャラクターである「ぶるべー」を始め、清瀬市の「ニンニンくん」、西東京市の「いこいな」にも登場してもらっており、ユニークな内容となっていますので、ぜひみなさんも一度、ご覧いただければと思います。

最後になりましたが、冒頭でお伝えした家庭ごみ有料化の取り組み以外にも、様々な施策に取り組んでいくことで、今後も市民と事業者の協力を得ながら、さらなるごみの減量と資源化の推進につなげていきたいと考えております。



動画 URL <https://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/048/048623.html>  
小平市ホームページ→ごみ・環境→資源とごみの出し方→雑がみの出し方